

河井継之助を知る

司馬遼太郎「峠」の主人公、河井継之助。幕末という激動の時代を駆け抜けた河井継之助とはどんな人物だったのでしょうか。図書館には河井継之助に関する資料がたくさんあります。その中から継之助や継之助が関わった戊辰戦争について知ることができる資料を紹介します。

人物像

河井継之助(かわい つぎのすけ) 1827-1868

文政10年(1827)正月元日、河井代右衛門秋紀・貞子の長男として城下で生まれた。通称は継之助、名は秋義、蒼龍窟(そうりゅうくつ)と号した。江戸に遊学したのち、備中松山藩にて山田方谷(ほうこく)に師事、藩政改革や陽明学を学んだ。帰国の後、藩政に携わり慶応3年には家老職に昇進した。藩政改革に着手し、財政再建にも取り組んだ。藩士の禄高改正、藩兵の洋式化などを断行し、軍事総督に就任、武装中立を唱えた。同4年5月新政府



軍の軍艦岩村精一郎との小千谷会談で藩の嘆願を聞き入れてもらえず、奥羽越列藩同盟軍に属して開戦。19日薩長軍の奇襲を受け長岡は落城。7月には八丁沖からの奇襲で長岡城の奪還に成功するも重傷を負い、8月16日会津領塩沢(福島県只見町)にて42年の生涯を閉じた。

参考『長岡歴史事典』

河井継之助の活躍を知るには

『峠』上・中・下巻 司馬 遼太郎／著 新潮社 2003.10 新潮文庫

『馬上少年過ぐ』 司馬 遼太郎／著 新潮社 1978.11 新潮文庫

『風と雲の武士 河井継之助の士魂商才』 稲川 明雄／著 恒文社 2010.12

:継之助の財政改革にスポットを当てた評伝。

『知られざる幕末の改革者 河井継之助』 稲川 明雄／著 アルファベータブックス 2022.6

:河井継之助研究に尽力した著者の遺作。

『河井継之助写真集』 安藤 英男／著 横村 克宏／写真 新人物往来社 1986.5

:河井継之助や関係する人物についての史料を写真で紹介したもの。

『河井継之助の生涯』 安藤 英男／著 新人物往来社 1987.6

:「塵壺」の校注を手掛けた著者による評伝。

『河井継之助傳』(復刻版) 今泉 鐸次郎／著 小西 四郎／解題 象山社 1980

:長岡の歴史家による河井継之助伝記の決定版。昭和6年出版の復刊。

『塵壺 河井継之助日記』河井 継之助／著 安藤 英男／校注 平凡社 1974.8 ワイド版東洋文庫

：河井継之助が松山藩の山田方谷を訪ねた際の旅日記。

長岡の戊辰戦争について知るには

『長岡郷土史』特集・戊辰戦争をめぐる(一)(二) 長岡郷土史研究会 1979.11 1986.7

『長岡市史双書 No.31 長岡藩戊辰戦争関係史料集』長岡市 1995.3

『北越戊辰戦争史料集』稲川 明雄／編 新人物往来社 2001.11

『補訂 戊辰役戦史』上・下巻 大山 柏／著 時事通信社 1988.12

『長岡城燃ゆ』稲川 明雄／著 恒文社 1991.8

『長岡城奪還』稲川 明雄／著 恒文社 1994.7

『長岡城落日の涙』稲川 明雄／著 恒文社 2001.5

河井継之助のゆかりの地に行ってみよう

『河井継之助の足跡をたずねて 北越戊辰戦争史跡めぐり』新潟県長岡地域振興局 新潟県三条地域振興局 2019.3

：長岡とその近郊に残る河井継之助の足跡や北越戊辰戦争の史跡を紹介。

『河井継之助の足跡を画く 旅日記・塵壺を中心に』池澤 寛／著 博進堂 2010.8

：河井継之助が西国を旅した際に書いた日記「塵壺」のスケッチ紀行。継之助が見た景色に思いを馳せながら楽しむことができる。

『越後長岡戊辰・河井継之助ゆかりの地ガイドブック』長岡推観光企画課 2022.7

：「河井継之助の旅」必携の一冊。

もっと詳しく知りたい方は

河井継之助記念館

長岡市長町1丁目甲 1675-1

TEL:0258-30-1525

JR 長岡駅から徒歩8分

開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)

<http://tsuginosuke.net/>



河井継之助記念館

河井継之助の書を見たい方は

ながおかネットミュージアム

<https://opac.lib.city.nagaoka.niigata.jp/museum/index.html>



河井 継之助

かわい つぎのすけ



少年時代
藩を
支える
人物になると
誓った継之助は

34歳で
帰郷すると
成長して各地で
様々な師に学び



ドンドン
やるぞ!

要職につき藩政改革で
新しい長岡を目指した

兵制の
改革
財政の
再建
組織の整理
門閥の
解体



最後の武士、継之助は
戦のさなか命を落とす

戊辰戦争では
「武装中立」で藩を守ろうと
するも
新政府軍との会談が決裂



その言葉や
行動は後世の
人たちに勇気を
与え続けている

外山脩造の
未来を
拓いたように
商人に
なりやい



〔1827(文政10)年〜1868(慶応4)年〕

外山脩造 後に関西財界の礎を築く

作画 / おんだちかこ

つぎの世も見据えていた“ラストサムライ”

幕末の長岡藩家老、軍事総督。当時日本に三門しかなかったガトリング砲を購入する一方で、戦争をさける努力も続けたリアリスト。長岡を舞台にした司馬遼太郎の小説『峠』の主人公として、今なお多くの人に影響を与えています。

河井継之助略年表

西暦	和暦	年齢 (数え年)	主な出来事
1827	文政10	1	正月元旦 長岡城下に生まれる
1841	天保12	15	崇徳館の質問生になる
1842	天保13	16	元服し、秋義と名のる
1843	天保14	17	立志の誓い
1850	嘉永3	24	榑野嘉兵衛の妹、すがを妻に迎える
1851	嘉永5	26	江戸に遊学する 齊藤拙堂、古賀茶溪の久敬舎、佐久間象山に学ぶ
1853	嘉永6	27	藩主に建言 評定方随役になる 長岡に帰る
1854	嘉永7	28	家老から藩政に参画することを阻まれる
1857	安政4	31	家督を相続する
1858	安政5	32	外様吟味役となり宮路騒動を解決する 12月 江戸へ向かう
1859	安政6	33	正月 久敬舎に入る 6月 江戸を出発し西国遊歴に向かう 7月 山田方谷を訪ねる
1861	文久元	35	長岡に帰る
1863	文久3	37	京都詰を命ぜられる 藩主牧野忠恭に京都所司代辞職をすすめる 長岡に帰る
1864	文久4	38	江戸詰になる
1864	元治元	38	5月 辞職する
1865	慶応2	39	再び外様吟役になり山中騒動に対応する 10月 郡奉行になる
1866	慶応2	40	11月 町奉行を兼ねる
1867	慶応3	41	4月 江戸詰になる、その後奉行になる 9月 小諸騒動を解決する 11月 朝廷に建白書を提出する 河井の改革 遊郭の廃止、川の通行税の廃止
1868	慶応4	42	正月 藩主牧野忠訓と大坂を退去し、江戸に向かう 3月 禄高改正 4月 家老になる 閏4月 家老上席・軍事総督になる 5月2日 小千谷談判決裂 5月19日 長岡城落城 7月25日 長岡城奪還 7月29日 長岡城再度落城 8月16日 会津塩沢にて没する

